

RSウイルス感染症予防接種 説明書

～予防接種を受ける前に必ずお読みください～

予防接種の効果や副反応について、よく理解し、気にかかることやわからないことがあれば医師と相談した上で、受けるかどうか判断してください。十分に納得できない場合、当日の体調が優れない場合は、接種を見合わせてください。

1 RSウイルス感染症とは

RSウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも一度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRSウイルス感染症発生数は12万人～18万人であり、3万人～5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気を必要としたとする報告もあります。

RSウイルスの流行には季節性があり、新型コロナウイルスの流行以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行がみられています。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。

2 母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンとして組換えRSウイルスワクチン（ファイザー社のアプリスボ®）があります。なお、組換えRSウイルスワクチンのうち、アレックスビー®（GSK社）は母子免疫ワクチンとして用いることはできません。

3 予防接種の効果

		生後90日時点	生後180日時点
母子免疫 ワクチンの 効果	RSウイルス感染による 医療受診を必要とした 下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
	RSウイルス感染による 医療受診を必要とした 重症下気道感染症(※)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※ 医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO₂ 93%未満・高流量鼻カニュラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

4 予防接種の副反応について

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。また、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もあるものの、交絡因子等の影響の可能性があることから解釈に注意が必要であるとされています。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛*（40.6%）、頭痛（31%）、筋肉痛（26.5%）
10%未満	紅斑*、腫脹（腫れ）*
頻度不明	発疹、蕁麻疹

*ワクチンを接種した部位の症状 添付文書より厚労省にて作成

5 接種を受けることができない方

- ① 明らかな発熱を呈している方（体温が37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 組換えワクチン（アプリスボ®）の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方
- ④ 上記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に診断された方

6 次の方は、接種を受ける際に医師とよく相談してください

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 組換えRSウイルスワクチン（アプリスボ®）の成分に対してアレルギーを呈するおそれがある方
- ⑥ 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- ⑦ 血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
- ⑧ 授乳中の方

7 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間程度は、急な健康状態の変化に注意し、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ③ 接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ④ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けてください。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、注射した部位はこすらないようにしてください。

8 健康被害の救済制度について

今回の予防接種を受けたご本人及び出生した児が、ワクチンの接種によって医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでたりするような障害を残すなどの健康被害が生じ、ワクチン接種によるものと認定された場合は、補償を受けることができます。

重い副反応が生じた場合は、医師又は水戸市保健所感染症対策課へご相談ください。